

22PO-am390

薬学共用試験 OSCE の結果解析 - 2018 -

○有田 悦子^{1,2}, 岡村 昇^{1,3}, 橋詰 勉^{1,4}, 田村 豊^{1,5}, 野田 幸裕^{1,6}, 石田 志朗^{1,7}, 入江 徹美^{1,8}, 小澤 孝一郎^{1,9}, 木内 祐二^{1,10}, 向後 麻里^{1,11}, 富岡 佳久^{1,12}, 中嶋 幹郎^{1,13}, 松下 良^{1,14}, 松元 一明^{1,15}, 吉富 博則^{1,16}, 渡邊 真知子^{1,16}, 木津 純子¹, 伊藤 智夫^{1,2}, 奥 直人^{1,16} (1薬学共用試験セ, 2北里大薬, 3武庫川女大薬, 4京都薬大, 5福山大薬, 6名城大薬, 7徳島文理大薬, 8熊本大院薬, 9広島大院医歯薬保, 10昭和大医, 11昭和大薬, 12東北大院薬, 13長崎大院医歯薬, 14金沢大院医歯薬保, 15慶應大薬, 16帝京大薬)

【目的】第9回薬学共用試験OSCE(以下、薬学OSCE)は、平成29年12月から翌年3月に、全国74薬科大学・薬学部において本試験および追再試験が実施された。これまでの薬学OSCEの結果を総括する。

【方法】薬学OSCEでは、5領域から6課題が無作為に抽出され、平成29年9月に各大学に実施課題が通知された。合格基準は、課題ごとに細目評価で評価者2名の平均点が70%以上、概略評価(6段階評価)で評価者2名の合計点が5以上とした。評価の公平性や透明性を確保するために、評価者として外部評価者が参画し、薬学共用試験センターからモニター員が派遣された。適正な実施を目指し、平成29年4月にOSCE実施説明会、9月にモニター説明会を開催し情報を共有するとともに、課題見直し作業についての説明を加えた。

【結果・考察】本試験受験者総数は11,027名であった。各課題における得点分布は、細目評価の平均値が91.5~99.6%、概略評価の平均値が8.7~10.1(12点満点)の範囲内であり、課題ごとの難易度に大きな差はなかった。各課題を時間内に終了できた割合は、89.1~100%であり、ほとんどが時間内に終了していた。実施率の低い評価細目は、評価者間の不一致率が高い傾向が認められた。細目評価と概略評価には強い相関は認められず、両評価を独立して行う意義が認められた。次に、コアカリ改訂に伴う課題見直しの一環として、これまでのワークショップ等で議論された新規課題案のトライアルのデータおよびアンケート結果を解析し、平成30年度からの新規課題を選定した。